

# X 文化事業



## 1. 基本方針

### (1) 文化財の保護・活用

本市には豊かな自然と歴史に育まれた数多くの有形無形の文化財がある。それらの文化財は永く私たち市民の祖先が生成発展させてきた薫り高い市民環境の一つであり、地域の歴史と文化を知る大切な市民共有の財産でもある。去る沖縄戦において、多くの人命とともに数多くの自然・歴史・文化的財産を失った私達にとって、現存する文化財は計り知れない大切な遺産であり、“先人たちの知恵と工夫”を教える生きた教材でもある。しかし、沖縄戦と戦後の基地造成および都市化の影響で旧村落に関わる文化財は減少する一方であり、また、宜野湾特有の伝統的知識と技術を記憶に残す年配の方々も少なくなっており、それらの記録保存と継承・活用が危ぶまれている。

そこで、『文化財の保護・活用』については、市民の参画と協働によって、地域の歴史と文化を明らかにするとともに、市内各地域はもとより基地返還予定地の“まちづくり”に活かされることを基本方針として下記の施策に基づいた事業を推進する。

- ① 市民の参画と協働による文化財の保護・活用の推進
- ② 地域の歴史と文化を明らかにする埋蔵文化財の保護・活用の推進

### (2) 市史の編集

琉球王国時代の1671年、本市の母体となる宜野湾間切が首里王府によって設置された(間切とは、現在の市町村の行政区画に相当)。当時の宜野湾は、サトウキビやイモ等を主産業とした純農村地帯で、宜野湾街道と呼ばれる松の並木道が普天満宮から浦添まで続いていた。現在の市役所に相当する間切番所は、宜野湾間切宜野湾村に置かれ、明治以降は宜野湾役場になり、戦前まで宜野湾村の行政の中心地は字宜野湾であった。琉球王国が廃止となり、琉球藩を経て沖縄県となった1879(明治12)年以降には、沖縄県庁の支庁や教育事務所などの官公署が普天間に置かれ、本島中頭地区の中心地として賑わいをみせていた。

しかし、1945(昭和20)年の沖縄戦において本市域も壊滅的な戦災を被り、当時の人口の約27%にあたる3,600人余の犠牲者を出し、多くの歴史的・文化的・社会的財産を失った。本島南部で最も激しい戦闘が行われた6月からは、普天間飛行場の建設も始まった。終戦後に人々が県内各地の収容所から帰ってみると、ふるさとの地のほとんどは米軍基地に接收されており、戦争前の家と村に帰ることを願いつつも様変わりした光景に驚きを感じずにはおれなかった。米軍基地に故郷を接收されてしまい、住民は基地の周りに住まざるをえなかった。1972(昭和47)年に沖縄が日本に復帰する10年前の1962(昭和37)年には市制が施行され、「宜野湾市」が誕生した。

『市史の編集』については、このような市民の歩みを「市史」として編集・刊行するとともに、市の行政文書や自然・歴史・文化関係資料の収集と保存を進め、それらの資料の市民活用に向けて下記の施策に基づいた事業を推進する。

- ① 宜野湾市の自然・歴史・文化を学ぶ「市史」の編集〔市史編集事業〕
- ② 宜野湾市の最新情報を知る「宜野湾関係資料」の収集と保存
- ③ 市民の自発的な地域学習を支える「市史」の普及・活用

## 2. 文化財の保護・活用

### (1) 令和3年度事業実績

#### ① 市民の参画と協働による文化財の保護・活用の推進

##### ○ 文化財詳細分布調査の推進

「戦前来の旧村落に関わる文化財」や「戦中・戦後の貴重な戦跡や文献」の分布調査や「宜野湾特有の伝統的知識と技術」を記憶に残す年配の方からの聴き取り調査を推進し、その記録保存と保護・活用に努めた。

##### ○ 文化財保存整備事業

・令和2年度～令和3年度、「野嵩クヌカー」の保存整備工事を実施した。（長年の風雨等により一部傾いている石積の修復・復元や園路広場などの整備）

・我如古に所在する「本部御殿墓」<sup>もとぶどうんばか</sup>は令和3年2月25日宜野湾市文化財史跡に指定され、令和3年度より保存整備工事を実施中。（長年の風雨等により一部傾いている石積の修復・復元や里道などの整備）

##### ○ 無形文化財育成事業

我如古スンサーミー・大謝名の獅子舞・普天間の獅子舞の3保持団体に育成補助金を交付し、市内の代表的な伝統文化である無形民俗文化財の保存継承に努めた。（大山の綱引き・真志喜の綱引き・野嵩ちなひちもうい・野嵩まーるあしびの4保持団体は、コロナ禍のため開催中止）

##### ○ 文化財愛護活動推進事業

市民共有の財産である文化財の保護・活用に向けて、市民の参画と協働による広域的なネットワークづくりを進めるために、「宜野湾区」をテーマに開催を予定していたイガルー・シマ文化財教室は、コロナ禍のため開催中止。

##### ○ 文化財説明板・標識設置事業

・市指定文化財「大謝名の獅子舞」及び「大謝名メヌカー」の文化財説明板を設置した。

・宜野湾区、大謝名区・上大謝名区、野嵩区の文化財所在地や戦前の様子がわかる、歴史文化遺産マップの印刷・配布を行った。また、これらの地域に文化財案内板を設置した。

・市指定文化財「普天間の獅子舞」及び「我如古スンサーミー」の文化財説明板のデザイン作成をした。

・普天間区、新城区、伊佐区、愛知・神山地域の文化財所在地や戦前の様子がわかる、歴史文化遺産マップ及び文化財案内板のデザイン作成をした。

##### ○ 西普天間住宅地区跡地利用推進事業（文化財調査）

・西普天間住宅地区重要文化財（歴史の道[全体]他）保存整備基本計画作成  
西普天間住宅地区にある重要文化財「歴史の道」「湧水及び関連文化財」「喜友名グスク」について、跡地利用計画との整合性を図りつつ、保存整備基本計画を作成した。

・喜友名バシガー古湧水計測図化等業務委託

喜友名バシガー古湧水の実測図を作成し、現況測量を実施した。石積に生じた異常個所を図上に示し、崩落した場合に備えた。

・「あ・山」<sup>しるび</sup>銘の印部土手復元展示等業務委託

西普天間住宅地区で発見された「あ・山」銘の印部土手について、印部石及び根張石を取り上げ、博物館へ復元展示を行った。印部石はレプリカを作成し、復元した印部土手へ設置した。

② 地域の歴史と文化を明らかにする埋蔵文化財の保護・活用の推進

- 埋蔵文化財の保護調整と試掘・確認調査および緊急発掘調査の実施

【埋蔵文化財の保護調整】

個人や民間事業所が計画する個人住宅建設、共同住宅建設、店舗建設、宅地分譲及び不動産鑑定評価などで提出された埋蔵文化財の有無照会は、339 件だった。

埋蔵文化財の有無照会の件数

照会内訳	件数
住宅建設	131
共同住宅建設	34
店舗	9
個人兼共同住宅・店舗建設等	7
宅地分譲	10
不動産鑑定評価	70
土地家屋調査	14
墓地造成	21
その他	43
合計	339

【基地内遺跡ほか発掘調査事業】

平成 27 年 3 月に返還された西普天間住宅地区（旧キャンプ瑞慶覧）内では、喜友名・新城の宿道（歴史の道）の範囲確認調査と、喜友名ヒージャーガー（喜友名ナナヌカー古湧泉群）の試掘調査を行った。

民間地では、嘉数トウンヤマ遺跡、嘉数同原遺跡、普天間古集落、中原同原遺跡、大山東方丘陵古墓群の各埋蔵文化財包蔵地と字宜野湾において、開発工事のための試掘を実施した。その中でも近世～グスク時代頃（150～800 年前）に形成されたと考えられる嘉数同原遺跡は新規発見の遺跡となる。

埋蔵文化財の発掘調査報告書については、本市が文化庁の国庫補助を受けて平成 28～30 年度に実施した西普天間住宅地区返還跡地における予備調査の成果を所収した「基地内埋蔵文化財調査報告書 8」と、同じく文化庁の国庫補助を受けて平成 30 年・令和元年度に実施した民間地の試掘調査の概報である「宜野湾市内遺跡発掘調査の概要」を刊行した。



歴史の道の調査（れき敷遺構）



嘉数同原遺跡の調査（遺構検出）

## 【埋蔵文化財緊急発掘調査事業】

西普天間住宅地区の跡地利用計画で、補助幹線道路が計画されている部分の緊急発掘調査を実施した。今回調査した遺跡は喜友名下原第一遺跡、喜友名下原第二遺跡の2遺跡である。

### 1) 喜友名下原第一遺跡

概要：先史時代、グスク時代（集落跡）、近世～近代（生産遺跡）の複合遺跡。

成果：グスク時代相当の建物の柱の跡や性格不明の溝などが確認され、グスク土器や中国産輸入陶磁器などが出土している。隣接して北側にはミーガーやバシガーなどの湧泉があり、湧泉に近い位置に集落を形成していたことが判明した。

### 2) 喜友名下原第二遺跡

概要：先史時代、グスク時代（集落跡）、近世～近代（生産遺跡）の複合遺跡。

成果：石積みや石列で形成された土留め、排水のための溝などが検出された。調査区域一帯は戦前まで耕作地として使用されており、これに関連する遺構と思われる。調査区の北側は段々状の地形を呈しており、耕作地を広げるために人為的に土地造成が行われていることが判明した。



喜友名下原第一遺跡 作業状況



柱の跡検出状況（喜友名下原第一遺跡）



喜友名下原第二遺跡 作業状況



溝跡の検出状況（喜友名下原第二遺跡）

## (2) 令和4年度事業計画

---

### ① 市民の参画と協働による文化財の保護・活用の推進

#### ○ 文化財詳細分布調査の推進

「戦前来の旧村落に関わる文化財（民家、湧泉、拝所等）」や「戦中・戦後の貴重な戦跡や文献」の詳細分布調査や、「宜野湾特有の伝統的知識と技術（生業、年中行事、地名等）」を記憶に残す故老からの聴き取り調査などを推進し、その記録保存と保護・活用に努める。

#### ○ 市指定および登録文化財の新規指定・登録の推進

国や県指定以外で、市にとって重要な文化財について、その保護・活用のために必要な措置を講じ、もって市民の文化的向上に資するとともに、市の文化の進歩に貢献するために、市内に所在する文化財を市指定および市登録文化財に新規指定・登録を行う。

#### ○ 文化財保存整備事業

市内に所在する指定文化財は、数百年前に建造・形成されたものであり、近年の開発や長年の風雨等により一部傾いている石積などが確認でき、今後の保存と公開活用・安全管理が懸念されている。今年度は令和3年度からの繰り越しとなっている市指定史跡「本部御殿墓」の保存整備工事を行う。

#### ○ 無形文化財育成事業

市内の代表的な伝統文化である無形民俗文化財の保存継承に向けて、我如古スンサーミー・大山の綱引き・真志喜の綱引き・野嵩ちなひちもうい・大謝名の獅子舞・普天間の獅子舞の6保持団体に育成補助金を交付する予定である。

#### ○ 文化財愛護活動推進事業

市民共有の財産である文化財の保護・活用に向けて、市民の参画と協働による広域的なネットワークづくりを進める。今年度は令和2～3年度にコロナ禍で開催できなかった「宜野湾区」をテーマに宜野湾区自治会において、地域住民や市内外の方々も参加する第20回イガルー・シマ文化財教室を開催する予定である。

#### ○ 文化財説明板・標識設置事業

市指定無形民俗文化財「普天間の獅子舞」及び「我如古スンサーミー」の文化財説明板を設置予定である。

普天間区、新城区、伊佐区、愛知・神山地域の文化財所在地や戦前の様子がわかる、歴史文化遺産マップの印刷・配布及び地域文化財案内板を設置予定である。

#### ○ 西普天間住宅地区跡地利用推進事業（文化財調査）

円滑な跡地利用の促進に向けて、「令和3年度 西普天間住宅地区重要文化財（歴史の道[全体]他）保存整備基本計画」を踏まえた「基本設計」を作成する。また、歴史の道について3D計測、および動画等を作成し「基本設計」に反映させる。

② 地域の歴史と文化を明らかにする埋蔵文化財の保護・活用の推進

○ 埋蔵文化財の保護調整と試掘・確認調査および緊急発掘調査の実施

【埋蔵文化財の保護調整】

個人や民間事業所が計画する住宅建設、不動産鑑定評価等において提出される埋蔵文化財の有無照会は、速やかに関係機関と調整を行う。また行政機関や在沖米軍などが計画する開発工事も、同様な取り扱いをする。

【基地内遺跡ほか発掘調査事業】

市内に所在する埋蔵文化財の詳細な分布状況を把握するとともに、埋蔵文化財が所在する場所における個人住宅建設や行政機関や在沖米軍などの開発工事においては、事前に埋蔵文化財の試掘・確認調査と緊急発掘調査を実施する。

【埋蔵文化財緊急発掘調査事業】

西普天間住宅地区等の開発工事に伴い、文化財保護法第 99 条の規定に基づく埋蔵文化財緊急発掘調査を実施する。



### (3) 国・県・市指定文化財と埋蔵文化財

国・県・市では文化財保護法や条例・規則などを定めて、地域に残された文化財のうち国・県・市にとって重要な文化財を所有者等の同意と学識経験者の検討を踏まえて指定・登録し、その保護・活用に努めている。市内で指定・登録された文化財は、国指定文化財が2件、県指定文化財が3件、令和2年度に本部御殿墓が新規指定され市指定文化財が21件、市登録文化財が2件の合計28件となっている。

埋蔵文化財は土地に埋蔵されている有形の文化財を指し、埋蔵文化財を包蔵する土地が埋蔵文化財包蔵地（遺跡）である。埋蔵文化財は他の種別の文化財と異なり、その性格・内容などが不明なために、すべての埋蔵文化財包蔵地が文化財保護法の対象となる。現在市内には345箇所の埋蔵文化財包蔵地が確認されている。

従って、国・県・市の関係法令などにより、市域の文化財に保護・活用の規制が加えられたものは、上記の指定・登録文化財28件と埋蔵文化財包蔵地345箇所を加えた372件が相当する。

#### 国指定文化財

指 定 名 称	所 在 等	内 容
ちゆんなーがー ①喜友名泉 (有形文化財[建造物]) 平成4年8月10日指定	喜友名：県道81号沿いの斜面緑地にある喜友名区の村泉（ムラガー）。	・沖縄県を代表する石造湧泉である。イナグ（女）ガーとも呼ぶカーグワーは日々の飲料水や洗濯に使われ、イキガ（男）ガーとも呼ぶウフガーはワカミジ（若水）・ウブミジ（産水）を汲み牛馬に水浴びをさせる場所であった。
おおやまかいづか ②大山貝塚 (史跡) 昭和47年5月15日指定	大 山：国道58号沿い株式会社ジミーの裏手の美底森と呼ぶ山林にある縄文時代後期相当の遺跡。	・1958（昭和33）年に賀川光夫氏と多和田眞淳氏により、沖縄県で初めて考古学的手法で発掘調査された遺跡である。約3000年前の地層から多量に出土した深鉢形土器は大山式土器と呼ばれ、沖縄の指標土器となっている。

#### 県指定文化財

指 定 名 称	所 在 等	内 容
おろくぼか ①小祿墓 (有形文化財[建造物]) 昭和33年1月17日指定	嘉 数：戦跡として知られる嘉数高台の北側、比屋良川沿いの断崖にある古墓。	・断崖の中腹を掘り込んで、正面を石積みで塞いだ古式の墓である。葬儀の際には、正面中央の石積みを取り外し、棺を入れた御轎（ウチュウ：肩でかつぐ輿）ごと入れる。
おろくばかないいしずし ②小祿墓内石厨子 (有形文化財[彫刻]) 昭和33年1月17日指定	嘉 数：小祿墓に納められている。中国産の石材（閃緑岩）製の大型蔵骨器。	・蔵骨器の正面中央には、『弘治七年おろく大やくもい六月吉日』の銘文がある。弘治七（1494）年は沖縄最古級の平仮名文字である。全体に浮き彫りが施され、蓋には屋根瓦に火炎宝珠と龍、身には花活けを持った二人の童子や蓮弁などがあしらわれる。

指 定 名 称	所 在 等	内 容
ぎのわんしもりかわ <b>③宜野湾市森の川</b> (名 勝) 昭和 42 年 4 月 11 日指定 平成 12 年 5 月 19 日追加指定	真志喜：森川公園内に所在する真志喜区の村泉（ムラガー）。村の聖地であるウガンヌカタも指定地内に所在。察度王の生誕にまつわる羽衣伝説で知られる。	・湧き出した水が地面を削ってできた溪谷泉で、1725（雍正 3）年に向氏伊江家（首里士族）により石造で整備された。1957（昭和 32）年にはここを水源とする簡易水道が造られ、姿が変わってしまったが、その後の上水道整備と琉球政府による名勝指定により修復工事が行なわれ、現在の姿となった。

### 市指定文化財

指 定 名 称	所 在 等	内 容
おろくばかせきちようこうろ <b>①小禄墓石彫香炉</b> (有形文化財[彫刻]) 平成 3 年 8 月 1 日指定	嘉 数：小禄墓の墓庭にある。中国産の石材（閃緑岩）で造られた香炉。	・香炉の四面に火炎宝珠（又は太陽）や麒麟・花生け、四隅に獅子が浮き彫りされている。1806（嘉慶 11）年に馮姓の士族より寄進された。
おろくばかせきちようじし <b>②小禄墓石彫獅子</b> (有形文化財[彫刻]) 平成 3 年 8 月 1 日指定	嘉 数：小禄墓の墓庭にある。一對の凝灰岩製の石彫獅子。	・未指定の凝灰岩製の香炉の両脇に置かれた墓守の石彫獅子である。獅子は、立ち上がった形であるが、磨滅が著しく、元の姿がわかりづらい。
ましきさきまけもんじよ <b>③真志喜佐喜真家文書</b> (有形文化財[古文書]) 平成 3 年 8 月 1 日指定	真志喜：琉球王国時代の「真志喜のろ（謝名のろ）」の生家である奥間家（屋号）に伝わる古文書。	・琉球王国時代に、宜野湾西海岸一帯の村々の祭祀を司った地方女神官である謝名のろ職の継承や職名変更の経緯が記された文書で、当時の村人の祖霊観等も記される。
めいじとちだいちようふぞくちず <b>④明治土地台帳附属地図</b> (有形文化財[歴史資料]) 平成 3 年 8 月 1 日指定	野 嵩：市役所保管の村図（大字図）10 葉と宇地泊区自治会保管の字図（小字図）3 葉。	・明治政府による土地改正に伴う土地台帳の附属地図として明治 30 年代に作成された。当時の土地利用や、区画の様子が詳しくわかる歴史資料である。
きゆな いしじしぐん <b>⑤喜友名の石獅子群</b> (有形民俗文化財) 平成元年 3 月 31 日指定 平成 25 年 3 月 27 日追加指定	喜友名：喜友名区の旧集落の周りを取り囲む石獅子群。指定された石獅子は 7 体。	・村獅子としては沖縄最多の 7 体の石獅子で、他にヒージャーグーファーやウフブタと呼ばれる石体があり、石獅子とあわせて邪悪なものから村を守る。
がにく <b>⑥我如古ヒージャーガー</b> (有形民俗文化財) 昭和 51 年 4 月 2 日指定	我如古：我如古区公民館の後方を流れる志真志川沿いの崖下にある区の村泉（ムラガー）。	・我如古の人々が共同で使う湧き水の中で最も古い湧泉と言われ、重要な聖地でもある。岩盤を削って平石をはめ込んだ 15 段の石段、湧泉を取り囲む積み石など、1892（明治 25）年頃の石造建築である。

指 定 名 称	所 在 等	内 容
ふてんま ししまい <b>⑦普天間の獅子舞</b> (無形民俗文化財) 平成元年3月31日指定	普天間：普天間拝所にて旧暦7月13・15日、8月15日に開催。	・琉球国王尚元（1528～1572）から村興しの神として普天間に贈られた説や普天間の「赤馬」と野嵩の「獅子」を取り替えたとも伝わる。演技に数々の特徴があり、細かい芸や演劇的な所作により構成される。
おおじやな ししまい <b>⑧大謝名の獅子舞</b> (無形民俗文化財) 平成元年3月31日指定	大謝名：戦前は旧暦7月15日と8月15・16日の三回開催され、現在は大謝名公民館にて旧暦8月15日のみに開催。	・踊りが素朴かつ勇壮であり、四方へ吠えるという獅子本来の魔除けの性質を示すなど威厳さが保たれている。1976（昭和51）年に33年ぶりに復活した。
が に く <b>⑨我如古スンサーミー</b> (無形民俗文化財) 平成7年12月27日指定	我如古：戦前は我如古平松の下で旧暦3月3日に行われていたが、現在は我如古区公民館でその旧暦3月3日以後の週末に開催。	・サングウチャー行事の1つとして受け継がれたスンサーミー、スーラキ節、今帰仁節の3曲の唄と、それに対応する踊りが指定されている。スンサーミーだけは、四つ竹を打ちながら踊る。
の だけいしだみみち <b>⑩野嵩石畳道</b> (史 跡) 平成元年3月31日指定	野 嵩：普天間二区から中城村登又区に抜ける県道29号線の左手斜面の石畳道。	・琉球王国時代の旧中城間切と旧勝連・具志川間切に至る公道（宿道）である。護佐丸・阿麻和利の乱に由来してスディバナビラ（袖離坂）とも呼ばれる。
の だけ <b>⑪野嵩クシヌカー</b> (史 跡) 平成元年3月31日指定	野 嵩：普天間（南）交差点を中城村向けに約300m進み、野嵩一丁目のバス停近くに所在。	・野嵩区の村泉（ムラガー）で、市内でも高い所（標高81m）にある湧泉の一つである。湧泉の壁面を布積みと相方積みで階段状に仕上げる。共同生活用水としてだけでなく、戦中・戦後の収容所時代には軍作業の洗濯場として使われた。
い さ バル <b>⑫伊佐「たけたう原」</b> めいのしるびどて <b>銘の印部土手</b> (史 跡) 平成3年8月1日指定	喜友名：パイプライン伊佐向けの山手側、普天間飛行場近くの佐渡山音楽教室より道沿いに約100m山手側をのぼり、西側の山林内にある。	・琉球王国が独自で実施した元文検地（約250年前）の土地測量の際に設置された図根点である。根張石で土どめされた土手に原名と記号が彫られた印部石が建つ。
い さはま しんどうさあてんはしひ <b>⑬伊佐浜「新造佐阿天橋碑」</b> (史 跡) 平成元年3月31日指定	伊 佐：特別養護老人ホーム愛誠園の東側に延びる旧護岸のそばに立つ、「伊佐浜の碑文」と呼ばれる石碑。	・琉球王国時代の「中頭方西海道」の公道整備の際に、北谷町北前区にあった佐阿天橋の新造を記念して1820（嘉慶25）年に建立された。
おおやまうたきひ <b>⑭大山御嶽碑</b> (史 跡) 平成元年3月31日指定	大 山：国道58号線沿いの株式会社ジミー後方の伊波家（屋号）の聖地であるウガングワーに立つ石碑。	・大山区の旧家のひとつ伊波門中の由来と拝みについて記され、1761（乾隆26）年に当時の宜野湾間切の上級役人層等によって建立された。
にしもりひき <b>⑮西森碑記</b> (史 跡) 平成3年8月1日指定	真志喜：県指定文化財である「宜野湾市森の川」のウガングカタにある石門の裏手に立つ石碑。	・琉球王国の尚清王ゆかりの伊江家が、先祖の徳をしのび、石門と湧泉の石積み工事の完成を記念して、1725（雍正3）年に建立した。

指 定 名 称	所 在 等	内 容
<small>おおやま どうけついせき</small> <b>⑩ 大山マヤーガマ洞穴遺跡</b> (史 跡) 平成 11 年 2 月 23 日指定	大 山：普天間飛行場の大山ゲート近く、大山区の醴泉之塔の北隣に所在。	・洞穴内では、縄文・グスク・琉球王国時代に相当する生活道具や遺骨・蔵骨器が出土した。市域の墓造りの移り変わりや葬り方を知る重要な遺跡である。
<small>おおじゃな</small> <b>⑪ 大謝名メヌカー</b> (史 跡) 平成 3 年 8 月 1 日指定	大謝名：大謝名区の村泉（ムラガー）で、港田原（ナトゥダバル）と呼ばれ、かつては入江だった。大謝名小学校の正門近くにある。	・地下水の湧き出る洞穴に三本の樋（水口）を架け、開口部分を布積みと相方積みで頑丈に塞いだ湧泉である。周囲は三段の野面積みで土砂崩れを防ぐ。生活用水や人生の節目に使う神聖な水を汲む場所であった。
<small>ふてんまぐうどうけつ</small> <b>⑫ 普天満宮洞穴</b> (名 勝) 平成 3 年 8 月 1 日指定	普天間：旧琉球八社の一つ、普天満宮の境内にある洞穴で、洞穴内には拝所の奥宮が所在。	・全長 280m を測る洞穴で、つらら石や石柱などの鍾乳石が発達している。入口付近には数万年前のシカの化石や縄文時代相当の遺物などが出土する。
<small>おおじゃな たんすいこうそう</small> <b>⑬ 大謝名メヌカー淡水紅藻</b> (天然記念物) 平成 3 年 8 月 1 日指定	大謝名：上記の大謝名メヌカーの樋（水口）と湧き水の落ちる底石に生育する。	・2種の淡水紅藻（オオイシソウ、タニコケモドキ）が生育。本市の豊かな湧泉と河川を特徴づける植物で、本市の地勢の成り立ちを教える生きた化石でもある。いずれもレッドデータブックに掲載されている。
<b>⑭ ウデナガサワダムシ</b> (天然記念物) 昭和 51 年 5 月 29 日指定	市全域：上記の「宜野湾市森の川」後方のマヤーアブと野嵩一区にあったターバルガマと呼ばれる洞穴に生息。	・洞穴の環境に適応した体長 5 ～ 6 mm 程の小さな虫で、クモやサソリの仲間である。限られた場所だけに生育し、移動する力が極端に弱いので、地域の地史を語る貴重な生き物。
<small>もとぶどうんばか</small> <b>⑮ 本部御殿墓</b> (史跡) 令和 3 年 2 月 25 日指定	我如古：宜野湾市と西原町との境近く、沖縄病院の道向かい、しいの実保育園南側の丘陵に所在する。	・第二尚氏王統第十代尚質王の六男・尚弘信、本部王子朝平を元祖とする亀甲墓で、市内の古式亀甲墓と類似する。元祖朝平が洗骨された 1694（康熙 33）年以降に造墓されたと推察される。

## 市登録文化財

登録名称	所在等	内容
<p>かみやま あいち ① 神山・愛知ヌールガ — (有形民俗文化財) 平成 25 年 3 月 28 日登録</p>	<p>愛 知：普天間飛行場の近く、宜野湾小学校脇の道を通り、あいのもり保育園の裏手側斜面に所在。</p>	<p>・宜野湾ノロに関わる湧泉という伝承があり、当初は宜野湾のカリカル（嘉手苺・屋号）が管理していたようである。戦前までは神山集落の旧家が崇拝し、戦後は字神山郷友会がハチウビー（初御水）の祭祀で拝んでいる。愛知では、ウブガー（産泉）として敬っている。</p>
<p>ぎのわん ねんちゆうさいし ② 宜野湾の年中祭祀 (無形民俗文化財) 平成 26 年 8 月 15 日登録</p>	<p>宜野湾：「土帝君例祭」は宜野湾公民館裏の土帝君で旧暦 2 月 2 日、「カーサレー拝み」は普天間飛行場内のウブガーで旧暦 6 月 25 日、「シマクサラシ」は宜野湾区内で旧暦 8 月 10 日。いずれも宜野湾区自治会と字宜野湾郷友会が合同で行う。</p>	<p>・戦前まで字宜野湾で行っていた年中祭祀のうち現在まで受け継がれている祭祀。</p> <p>「土帝君の例祭」では豊作と集落の安寧を祈願し、「カーサレー拝み」ではウブガー（産泉）の清掃を行い、「シマクサラシ」では集落内に入ってくる悪い伝染病を防ぐことを祈願する。</p>



市指定史跡 本部御殿墓(令和 3 年 2 月 25 日指定)



**【国指定文化財】(有形文化財[建造物])**

**喜友名泉① カーグラー**

布積みと相方積みの併用で精巧に噛み合う石積み  
が施され、3ヶ所の湧水口には石樋が架かります。安  
置する香炉の銘文から、明治 22 年に新造もしくは修  
造されたようです。



**【国指定文化財】(有形文化財[建造物])**

**喜友名泉② ウフガー**

布積みを基調とした堅牢な造りで、巨石造りです。  
東壁に2ヶ所、南壁に1ヶ所の湧水口があります。北  
側の壁には紐くり石があり、牛馬の手綱を結んだよ  
うです。



**【国指定文化財】(史跡)大山貝塚**

戦前建てられた祠に向かって左側のくぼ地で、県  
内初の「層位学」に基づく発掘調査が行われ、その  
際に出土した深鉢型土器は大山式土器と名付けら  
れ沖縄の指標土器に位置づけられています。



**【県指定文化財】(有形文化財[建造物])**

**小禄墓**

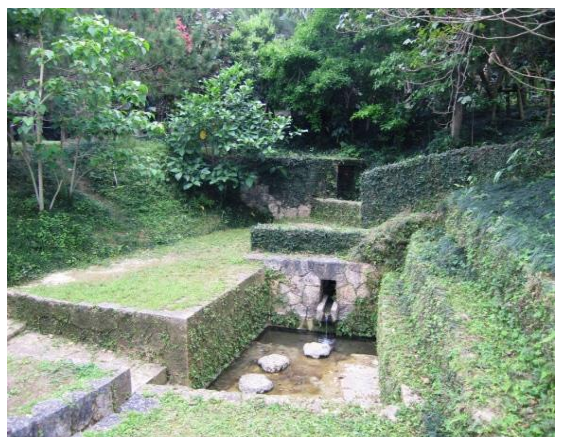
比屋良川沿いの断崖に横穴状に掘り込んだ、数  
百年にさかのぼる古い墓群の一つで、小禄墓  
は、幅 8.5m、高さ 2.4mを測ります。



**【県指定文化財】(有形文化財[彫刻])**

**小禄墓内石厨子**

蔵骨器正面中央の銘文にある「おろく大やくも  
い」の「おろく」は、集落名を、「大やくもい」は、琉  
球王国時代の高級官人の肩書をあらわしてい  
ます。



**【県指定文化財】(名勝)**

**宜野湾市森の川**

1725(雍正 3)年、有力士族伊江家が溪谷泉を  
石造で整備した湧泉で、布積みと相方積みが併  
用されています。

(1) 市史編集の基本的な考え方

市史の編集は、1979(昭和 54)年に市史編集委員会が再スタートして以来、市史 18 冊、市報(村)縮刷版4冊、報告書9冊(CD・DVD映像報告 2 枚含む)の計 31 冊を刊行、製作してきた。これらの刊行にあたっては、次の市史編集の考え方と方法に基づいている。

① 編集の考え方

- みなさんの市史
- 市民が作る市史
- 広い視野に立つ市史
- 資料の収集の上に立つ市史
- 市民生活を記録する市史
- 近現代を重視した市史

② 編集の方法

市史は、大別して本編と解説編(普及版)および別冊により構成され、さらに本編は通史編・資料編・追録編に分かれている。編集に際しては、学識経験者と学校教育および社会教育の関係者等から構成される「市史編集委員会」によって調査・審議を行っている。

- 本編は、市の自然・歴史・文化等を、市民の「市史」という観点から編集する。
- ・通史編は、刊行された資料編の成果に基づき、平易な記述によってまとめる。
- ・資料編は、市の歴史・文化・社会を詳しく知るための多様な資料を網羅する。
- ・追録編は、当該資料編の刊行後に、新しい資料や知見があった際に刊行する。
- ・別冊は、本編に付随する刊行物で、本編を補完するためにまとめる。
- 解説編は、刊行された通史編と資料編の「市民への普及・活用」を目的として、写真や地図またはイラスト等を多用して、読みやすくまとめる。

(2) 令和4年度事業計画

\* 市史編集業務は、市立博物館学芸係内で進めている。

1. 宜野湾市の自然・歴史・文化を学ぶ「市史」の編集
<p>① 市史編集事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『宜野湾市史』教育編の刊行に係る聞き取り調査および資料収集・分析等。</li> </ul>
2. 宜野湾市の最新情報を知る「宜野湾関係資料」の収集と保存
<p>①市行政文書の収集と保存</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保存年限が経過して廃棄された市行政文書の中で、歴史資料として保存する必要がある文書を歴史公文書として引取り、その整理・登録・保存を行う。</li> <li>・整理を終えてデータ化した歴史公文書の内、公開に適する公文書を市 HP にて公開する。</li> <li>・博物館所蔵の写真類のデジタル化を行い、整理が終わった資料から公開する。</li> </ul> <p>② その他の宜野湾関係資料の収集と保存</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宜野湾関係の写真・古地図・古文書等を収集する。</li> </ul>

### 3. 市民の自発的な地域学習を支える「市史」の普及・活用

- ・博物館広報誌「はくぶつかんネット」内において、市史だより「がちまやあ」で市史の普及を図る(年3回)。
- ・市報ぎのわん「茶ぐわーゆんたく」の連載(年6回)を行う。

## (3) 令和3年度事業実績

### 1. 宜野湾市の自然・歴史・文化を学ぶ「市史」の編集

#### ① 市史編集事業

- ・『宜野湾市史』教育編の刊行に係る既存資料や関係図書の収集・整理等。

### 2. 宜野湾市の最新情報を知る「宜野湾関係資料」の収集と保存

#### ① 市行政文書の収集と保存

- ・歴史公文書等整理・活用事業において、戦後初期行政文書の整理を行った。
- ・保存年限が経過して廃棄が決定された市行政文書のうち、歴史資料として保存の必要がある文書を引き取り、その整理・登録・保存を行った。
- ・歴史公文書のデータ化と、汚損や破損の著しい公文書の修復を行った。
- ・博物館所蔵の36万余枚の写真類の内、49,039枚のデジタル化及びデータベース化を行った。
- ・整理を終えてデータ化した歴史公文書の内、公開に適する公文書8冊を博物館HPにて公開した。

### 3. 市民の自発的な地域学習を支える「市史」の普及・活用

- ・博物館広報誌「はくぶつかんネット」に市史だより「がちまやあ」を収録し、配布(年3回)。
- ・市報ぎのわん「茶ぐわーゆんたく」の連載(年6回)。



#### (4) 刊行本一覧

##### ① 『宜野湾市史』巻別・編別一覧

巻 別	編 別 題 目	収 録 内 容	発 行 年	備 考
第 1 巻	通 史 編	宜野湾の歴史・文化・自然などを知る格好の入門書。	H6.3	
第 2 巻	資 料 編 1 新聞集成 I	明治 31 年から大正 7 年までに発刊された新聞から主要記事を選択して収録。	S55.11	
第 3 巻	資 料 編 2 市民の戦争体験記録	戦争を体験した宜野湾市民は、戦争をどうみつめ、どう考えたかを綴った生の証言集。	S57.11	
第 4 巻	資 料 編 3 宜野湾関係資料	多くの古文書の中から宜野湾市に関する主要内容を選択して収録。	S60.3	
第 5 巻	資 料 編 4 民 俗	近代ジノーンチュの生活様式を分野別に分けて、描き出した生活記録。	S60.3	
第 6 巻	資 料 編 5 新聞集成 II	大正 8 年から昭和 20 年 10 月までに発刊された新聞から主要記事を選択して収録。	S62.2	
第 7 巻 上	資 料 編 6 新聞集成 III 上	昭和 20 年 7 月から昭和 33 年までに発刊された新聞から主要記事を選択して収録。	S63.3	
第 7 巻 下	資 料 編 6 新聞集成 III 下	昭和 34 年から日本復帰の昭和 47 年までに発刊された新聞から主要記事を選択して収録。	S63.12	
第 8 巻	資 料 編 7 戦後資料編 I 戦後初期の宜野湾 (資 料 編)	宜野湾の戦後初期について、行政文書と市民の体験記でまとめた。	H20.3	
第 8 巻 解説編	宜野湾 戦後のはじまり (資 料 編 7 戦後資料編 I・解説編)	本市の戦後の様子をわかりやすくまとめた、歴史と現在が学べるビジュアル本。(初版 H21・2 版 H28)	H21.3 H28.6	
第 8 巻	資 料 編 7 戦後資料編 II 伊佐浜の土地闘争 (資 料 編)	1955(昭和 30)年の伊佐浜の土地闘争について関連史料や証言を記録としてまとめた資料集。	H31.3	
第 8 巻 解説編	伊佐浜の土地闘争 (資 料 編 7 戦後資料編 II・解説編)	1955(昭和 30)年、伊佐浜で起きた米軍による土地接收を紹介したビジュアル版。	R3.3	
第 9 巻	資 料 編 8 自 然(資料編)	民間地はもとより基地内も含む地質・地形・動植物等の自然総合調査資料。	H12.3	
第 9 巻 追録編	自然とヒト (資 料 編 8 自然・追録編)	自然とヒトとのつながりをテーマに、動植物の方言、宜野湾並松、農事試験場についてまとめた。	H15.3	
第 9 巻 解説編	ぎのわん自然ガイド (資 料 編 8 自然・解説編)	本市の自然とふれあい、観察できるように、わかりやすくまとめた自然ガイドブック。(初版 H13・2 版 H15)	H13.3 H15.6	在庫切れ

別冊	写真集「ぎのわん」	戦前・戦後の写真を収録した目で見える宜野湾の歴史。	H3.10	
別冊	戦後初期の宜野湾 — 桃原亀郎日記 —	戦後2代目の村長、桃原亀郎が記した日記。戦後初期の宜野湾を窺うことができる資料。	H9.3	
別冊	ぎのわん市の戦跡	平和学習の教材として各字の戦災状況の概要・慰霊塔・戦没者数・避難壕等をまとめた小冊子。(初版 H10・2 版 H15)	H10.3 H15.6	残部 僅少

## ② 宜野湾市(村)報縮刷版

題 目	収 録 内 容	発行年	備考
第1集	1957年8月～1967年12月(創刊号～第95号)	S58.1	
第2集	1968年1月～1978年3月(第96号～第197号)	S58.1	
第3集	1978年6月～1983年4月(第198号～第253号)	H4.9	
第4集	1983年5月～1988年12月(第254号～第321号)		

## ③ 市内民俗芸能調査報告書とCD・DVDなど

題 目	収 録 内 容	発行年	備考
ぎのわんの針突	1981年度と1993年度に調査した市内のハジチ習俗について記録。	H7.3	非売
ぎのわんの西海岸 — 土地利用・地名・海(イノー)・自然 —	宜野湾の西海岸に隣接する5地区の地名を中心に土地利用の変遷や自然状況をまとめた。	H8.3	非売
野嵩マールアシビ 組踊 宜野湾敵討	野嵩の村遊びや大正13年頃まで演じられていたとされる組踊「宜野湾敵討」を記録。	H8.3	非売
村芝居 — ぎのわんのムラアシビ —	普天間・新城・野嵩を主に市内各字の村遊びについてまとめた。伝統文化の継承を図るために上演台本も収録。	H13.3	
読んで知る* ぎのわんの綱引き	市内の綱引き行事について戦前・現代の綱引きと綱引き歌、その総括と解説をまとめた。	H17.12	在庫切れ
音にきく* 映像に見る ぎのわんの綱引き	市内の綱引き行事で歌われた綱引き歌のCDと現在の綱引き行事をDVDに納めた。	H17.2	
ぎのわんの地名 — 内陸部編 —	宜野湾村(市)の内陸部17カ字の戦前の集落や暮らしの様子など人々の生活に根ざした地名を記録。	H24.3	在庫切れ
ぎのわんの サングワチャー	市内のサングワチャー(三月)行事について、戦前・戦後の様子についてまとめた。また宜野湾と我如古で行われる行事をDVDに納めた。	H29.3	
佐喜真興英 — 生誕百年記念事業報告書 —	郷土の偉人佐喜真興英の生誕百年を記念して実施した事業を報告書としてまとめた。	H6.3	非売

※ 上記に紹介した刊行本は、市立博物館と文化課において販売している。